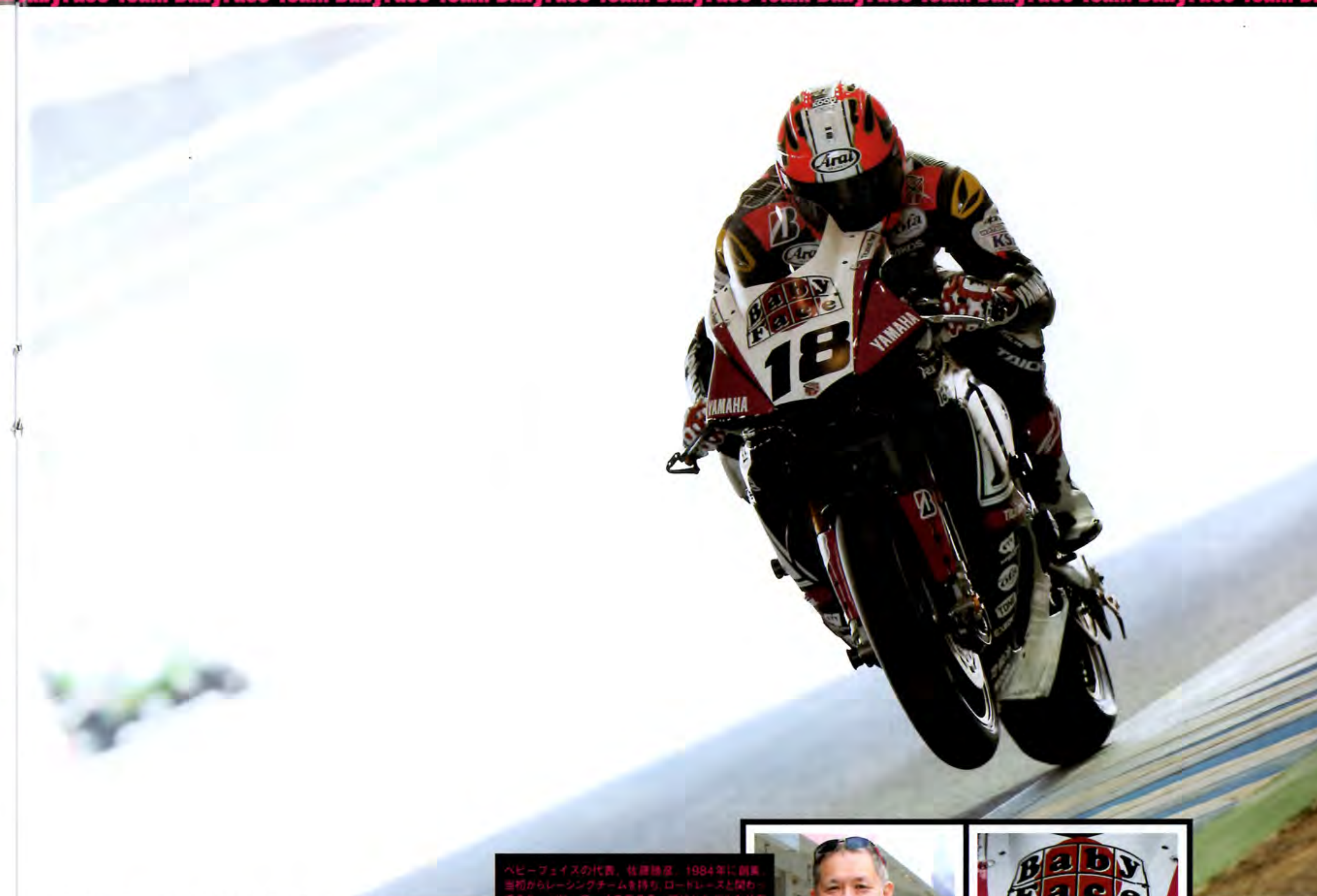

レース中のスピード感あふれる見事なウイリー写真。この瞬間を捕らえるフォトグラファーがいるからこそ、レースが記憶から記録になります

ベビーフェイスの代表、佐藤勝彦。1984年に創業。当初からレーシングチームを持ち、ロードレースと関わってきた。ベビーフェイスのステップやハンドルなどの金属加工品は国内一級品と評価されている。原稿執筆も一級品のようだ。自ら参戦記の原稿を書いてくれた

その11

物造りのヒントは現場にあり

Team BabyFace

津田一磨+ヤマハYZF-R1

全日本選手権JSB1000参戦記

2019年シーズンが開幕 メーカー系マシンに挑む！

**チームのYZF-R1を紹介してきたオフシーズンも過ぎ
いよいよチームベビーフェイスの2019年が開幕
東京モーターサイクルショーでは鈴鹿8耐の体制も発表
開幕戦もてぎでは2レース共にポイントを獲得した
メーカー系マシンに食い込んで戦う
純プライベーターチームの奮闘を佐藤監督がつづる**

写真／赤松 孝、内藤みさお　写真・文／佐藤勝彦

長かったシーズンオフも終わり、2019年の全日本選手権シリーズが開幕となりました。今年の走り始めは3月13日、14日と岡山国際サーキットで行なわれた、メーカーの占有テストでした。3月半ばという季節からもまだ寒く、路温も上がらない状態で、タイヤも市販のスリックを持ち込んで、現場で交換してもらいながらの走行でした。二日間にわたるテストは、合計で4セットの走行を行ない、プレシーズンとしてはちょうどいい感じで走り始めることができました。

まず初日は、シーズンオフのトレーニング中に右肩を痛めた津田一磨選手のリハビリを兼ねた走行から始まります。様子を見ながら徐々にペースを上げ、マシンのセッティングを進めながらテストを行ないました。

二日目には現状でどれだけ走れるかを試すために、一本目の走行から新品のタイヤを投入して走行です。結果としては、ケガから復帰したばかりとしては上出来のタイムをマークすることができました。

テスト終了後の翌週には東京モーターサイクルショーに行き、今年も共闘する株式会社オーファのブースで、鈴鹿8時間耐久レースへの参戦発表会を二日間にわたり行ないました。会場には、8耐を津田選手と共に走る藤田拓也選手にも来てもらい、たくさんのお客さまの前でトークショーを行ないました。

ショー終了の翌週には、第1戦が行なわれるツインリンクもてぎで、二日間にわたってテスト走行が行なわれました。マシン2台を含むレース機材一式を積み込んだトラックは、チーフメカの笠原さんに遠路はるばる運転して行っていただき、ライダー津田選手はモーターサイクルショー後、富士の裾野でのトレーニングを終え、サーキットで合流。そして私は、もう一人のメカニックである池田さんと共に飛行機で茨城空港まで飛び、レンタカーでもてぎに向かいました。

既にピットの設営を終えていたもてぎは、大阪と比べるとかなり寒く、震えながら翌日の走行の準備をしました。テスト走行は、久々に走るもてぎにセットを合わせることから始まります。昨年のデータはあるものの、タイヤのスペックが違っており、マシンの姿勢などにも変化があるので、フルストリップにして整備から行ないます。その後、チーム全員でミーティングを行ない、明日の走行に向けてのセットに変更して、この日の作業は終了です。

さて、初日のテスト走行が始まります。まずはマシンチェックからスタートで、ナラシを兼ねて各部の動きの確認からです。そして午後の走行では、冷えた路温を考慮しつつも13番手のタイムをマークしました。走行終了後は二日目に備えて、昨年8耐で使用したスイングアームに交換。各部の整備を行なって、一日目を終了しました。

二日目に入り、セットも決まってきた午後のセッションでは、唯一1分51秒台のタイムを出しトップに躍り出るという、幸先のいいスタートにピット内の士気も高まります。こうしてテストも終了し、トラックだけを残して撤収です。

初戦ということもあり、翌週の水曜日からチーム員5人そろってのサーキット入りです。サーキット到着後はすぐにピットの設営です。テストは殺風景な雰囲気だったのですが、近年エンターテイメント性も求められるレース界なので、まずはコンクリートの床にカーペットを張る作業から開始です。その後、横幕を左右に張り、ピットボードを立て、工具箱やテーブルを配置して完了です。

走り出しの木曜日は、参加者専用のスポーツ走行枠です。順調に周回を重ねていたのですがマイナートラブルがあり、パーツ類の交換等に追われましたが、それ以外は順調にメニューをこなし、走行が終了となりました。

金曜日はARTの合同走行で、午前、午後でそれぞれ40分の走行です。午前はセットの確認をしつつペースを上げ、午後は翌日の予選を意識してタイムアタックを行ないました。また、翌日使用するタイヤを装着し、予選に備えて皮むきも行ないました。

さて、明けて土曜日は午前中に予選。そして午後にはレース1が行なわれます。予選は45分間で行なわれるのですが、時間をムダに使わず、タイヤの状態がいい間にアタックをし、13番手のタイムを出すことができました。

レース1は13時40分スタートで、23周で争われます。スタート1周目はタイミングよく10位で戻って来たものの、その後ペースを落とし、6周目からは13位を走行。そして最終ラップでさらにペースを落とし、何とか14位でフィニッシュしたのですが、そのままグラベルに入り、止まってしまいました。

車両回収後に聞くと、なんと最終周でガス欠になってしまったとのこと。ガソリンタンクを改造して、レギュレーションいっぱいに増量していたのですが、思った以上に燃費が悪かったようです。しかし何とか完走できたことはラッキーでした。

第2レースは、第1レースと同じ轍を踏まぬように作戦を立て、サイティングラップ後はグリッドに向かわず、ピットロードからピットに入り、サイティングラップで減った分のガソリンを足し、そのままメカニックがグリッドまで押し出してスタートを迎えました。

レース2はスタートのタイミングが合わなかったのか順位を落としましたが、中盤からペースアップして、何とか予選順位の13位でフィニッシュしました。

予選のときにも感じたのですが、リザルトを見ると、メーカー系のマシンの中で戦っていることを実感します。これはほぼすべてのレーシングパーツを社内で企画設計、そして製作している純プライベーターチームとしては、誇るべきことだと思っています。

さて、次戦は鈴鹿で行なわれる2&4レースです。ある意味、地元である鈴鹿でのレースですので、ライダーはもちろん、チームもやる気満々で乗り込みます。長いストレートが2本ある鈴鹿はパワー勝負のレースになりますが、一つでも上を目指して頑張ります！！

実はこの原稿を書いている本日（4月13日）、藤田選手が来社してくれて、先ほどまで鈴鹿8時間耐久レースの打ち合わせをしていました。この後、津田選手が鈴鹿の走行から戻り、三者でさらなる打ち合わせをする予定です。

最後に、ずっとサポートさせていただき、仲のいい友人でもあり、いいライバルでもあった近藤湧也選手が、岡山のテストで転倒し、帰らぬ人となりました。彼の笑顔を思い出すと、無念でもあり、寂しくて仕方ありません。ご冥福をお祈りいたします。

3月に行なわれた東京モーターサイクルショーでは、藤田拓也選手を迎えて、今年の鈴鹿8時間耐久レースの参戦発表会を行ないました。今年はTeam Baby Face Titanium Power Racingとして、津田選手と藤田選手に走ってもらう予定です

ピットウオーク準備中の、今シーズンのデザインにラッピングされたマシンです。今年は、イメージカラーはそのままに、チームのロゴデザインを大胆にレイアウトしています

2レース共に13番グリッドを獲得。そこからスタート前に精神統一し、走行のイメージを高める津田選手。右はヘルパーを務める津田真理。そして左はケアの藤田志乃先生です

今年からチームを移籍した津田拓也選手との兄弟バトル。先を行く弟の一磨選手を兄の拓也選手が追います。この後、拓也選手に抜かれるのですが、いい勝負を見せてくれました

Team BabyFace 2019シーズン戦績

レース名	日程	予選	決勝	ポイント	ポイント計	ランキング
第1戦レース1 ツインリンクもてぎ	4月6日	13位	14位	7	7	-
第1戦レース2 ツインリンクもてぎ	4月7日	13位	13位	8	15	12位